

事業者温室効果ガス削減報告書概要（第二計画期間） 第2年度分

1 事業所の概要

事業者の名称	東日本旅客鉄道株式会社		
事業所の名称	東日本旅客鉄道株式会社　ＪＲ仙台病院		
事業所の所在地	仙台市青葉区五橋１－１－５		
主たる事業	医療業		
事業者の該当要件	○	条例第2条第5号イに該当する特定事業者	
		条例第2条第5号ロに該当する特定事業者	
		条例第2条第5号ハに該当する特定事業者	
		条例第15条第1項に該当する一般事業者	
温室効果ガス排出抑制のための基本方針	ＪＲ仙台病院は東日本旅客鉄道（株）の企業立病院である。エネルギーの削減に向けた取り組みは全社的に大きな関心ごとであり、病院も例外ではない。使用エネルギーの大半は空調設備に係るものであり、気温に大きく左右されるが、これまでの経験やデータ分析等を通してエネルギーの削減に向けて前向きに取り組んでいく。また、計画的に空調機器の老朽取替を実施し、機器の性能向上による削減効果にも期待したい。		

2 温室効果ガスの排出状況等

温室効果ガスの排出状況及び削減目標・非化石エネルギーの使用割合目標	基準年度	2022 年度	基準排出量	3,737 t-CO ₂	基準原単位	0.1363
	目標年度	2025 年度	目標排出量	3,620 t-CO ₂	目標原単位	0.1322
			削減率	3.13 %	削減率	3.00 %
		非化石エネルギーの使用目標割合	非化石電気	0.00 %	その他非化石エネルギー等	0.00 %
温室効果ガスの排出状況	第1年度	2023 年度	排出量	3,849 t-CO ₂	排出原単位	0.1404
			削減率	-3.00 %	削減率	-3.01 %
		非化石エネルギーの使用割合	非化石電気	28.66 %	その他非化石エネルギー等	0.00 %
	排出量等の増減理由	夏季の猛暑により熱源機器の稼働率が上昇し、ガスの使用量が大幅に増加したことが排出量増加の大きな要因である。（ガス使用量対前年度比：7月→119%、8月→141%、9月→156%） ガス、電気の使用量は熱源機器（冷温水発生器）の稼働状況に大きく左右されるが、昨今の気温上昇の影響もあり排出量の削減は厳しい状況が続くと考えられる。				
	第2年度	2024 年度	排出量	3,515 t-CO ₂	排出原単位	0.1282
			削減率	5.94 %	削減率	5.94 %
		非化石エネルギーの使用割合	非化石電気	0.00 %	その他非化石エネルギー等	0.00 %
	排出量等の増減理由	2023年度の猛暑に比べ、若干ではあるが夏季の気温が下がったことにより冷温水発生器の稼働が抑えられ、エネルギー使用量が減少したと考えられる。				
	第3年度	2025 年度	排出量	t-CO ₂	排出原単位	
			削減率	%	削減率	%
		非化石エネルギーの使用割合	非化石電気	%	その他非化石エネルギー等	%
	排出量等の増減理由					

3 温室効果ガスの排出抑制に関する取組

基本対策の実施状況	基準年度	92 %	目標年度	92 %
	第1年度	92 %	実施状況の説明等	エネルギー管理推進者を指定し、推進者を中心として使用しない時間帯の電気の消灯や便所の温度設定の見直しなど、職場全体で節電への取り組みを強化している。
	第2年度	92 %	実施状況の説明等	引き続きエネルギー管理推進者を中心にESG勉強会などを開催し、エネルギー使用量削減への意識向上を図る取り組みを行っている。
	第3年度	%	実施状況の説明等	

選択対策の実施状況	項目		実施状況
	エネルギー使用量の見える化（前年度比較）		実施済
	エネルギー使用量の見える化（分計による課題発見）		実施済
	熱源設備 冷却水温度の適正管理		実施済
	熱源設備 冷却水の水質管理		実施済
	窓の断熱性向上		実施済
	デマンド管理		実施済
	ボイラーの給水及びブローの管理		実施済
その他の対策の実施状況	項目	具体的な取組内容	実施状況
	従業員の自動車利用の抑制、公共交通機関の利用促進	通勤は基本的に公共交通機関利用のみとし、自家用車利用の抑制を図っている。	実施済
	廃棄物削減対策の実施	廃棄物の分別促進のため、注意喚起の貼紙の掲示を行っている。	実施済
	その他地球温暖化を防止する対策の実施	ビジネスシーンを考慮し、室温に合わせて快適に執務ができる服装を着用することとしている。	実施済